「五ヶ瀬中学校校歌より」

学　び　舎

五ヶ瀬中学校校長室だより
平成３０年７月２０日
№４
文責：校長　戸 敷 二 郎

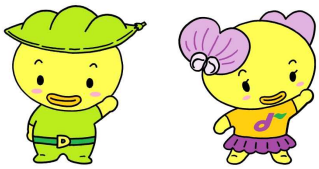
第１学期の終業式が行われました

昨年の北部九州に続き、西日本豪雨のような前代未聞の大災害が発生したり、九州より東の方が先に梅雨明けをしたり、地球規模での大きな気候変動などが話題になった平成３０年度の１学期でした。また、史上初の米朝首脳会談の開催やワールドカップ・サッカー大会など、グローバルな感覚を持って見守らなければならない出来事も多かったように感じています。被災地の一日も早い復興を願うばかりです。

五ヶ瀬中学校の１学期は、学校統合３年目として**「77の絆～伝統を刻む節目の1ページ～」**を生徒会スローガンに掲げ、全員が精一杯、自分の持てる力を発揮して学習やその他の活動に取り組んでくれたと感じています。私が常々訴えかけている**『地域住民の一人としての自覚』**を持って過ごしてくれた生徒が数多くいたことは、地域の方々からいただく学校の話題の中にもたくさん現れています。少ない人数ではありますが、勉学に部活動に、また、地域の伝統の継承にとよく頑張ってくれています。

更に、これらの生徒たちの活動を様々な分野で支えていただいている地域の皆様にも感謝いたします。還暦の同窓会に合わせた職業人講話、１年生の農業体験学習、３年生のＧＤＰ調査活動などなど、学校や教室の中では体験できない貴重な場を提供していただき、ありがとうございました。また、２学期以降もたくさんの体験プログラムがありますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

通信機器利用のルールに関する調査がまとまりました



「五ヶ瀬中学校教育振興会生活リズム重点取組」をお配りした際に調査した、各家庭での通信機器類利用のルールについての結果がまとまりました。

	ルールのある・なし	ある				ない			
	各学年回答数と合計数	１年	２年	３年	計	１年	２年	３年	計
問１	我が家では　情報通信機器利用に関するルールが	７	９	１２	２８	９	５	１５	２９
問２	我が家では情報通信機器利用に関するルールがないので、今後子供や家族と相談しながらルールを作っていく予定が	８	２	１３	２３	３	３	６	１２
問3	そもそも情報通信機器を使わせていない	４	２	１	７	※　長子での調査結果			

兄弟、姉妹等の回答数で若干の誤差がありますが、おおむねの傾向はつかめますので、実数のまま表示してあります。長子数が６２人ですので、母数をこれで分析していきます。

【ルールのある・なしについて】

・　使わせていない数７を差し引いて計算すると、約半数の家庭にルールがない状況です。

【今後のルール作りについて】

・　ルールがない家庭２９に対して今後検討するとした家庭が２３ですので、約８０％の家庭が今後のルール作りを考えていることになります。

【通信機器自体の使用について】

・　学年が上がるにつれて使わせていない家庭が減っていることが分かります。

裏面にも特設しましたが、現代の子育てにはこれらのルールなくしては成り立たない状況が発生しています。教育振興会重点事項の３番目にも示されたように、私たち大人も利用のルールやマナーを守るべき場面がたくさんあります。まずは、**利用時間と利用場面**。**夜間の機器保管場所**。**ルールが守られなかった場合のペナルティ**。この３点だけでも早急に話し合い、子供たちの大切な成長期に、十分な睡眠と休養が確保され、更に想像力が育つような環境を整えていただきたいと思います。

第４回テーマ

通信機器利用のルール

・崩れやすい夏休みこそ、家庭でのルールが大事

通信の表でも話題にしましたが、便利な通信機器利用のルールについては現代の子育ての必須事項となってきました。毎日、時間割に基づいてリズムを刻んでいる学期中は、ある程度「他力的に」リズムが作られていますが、夏休みなどの長期休業になると「根拠のない開放感」（私たちもずっとこれを子供時代に持っていましたが…）などから、リズムが崩れていった苦い経験を私たち大人は少なからず持っているのではないかと思います。私など毎年でした。

理想を言えば、中学生なんだから「自立（律）的」にスケジュールを立てて、しっかりと過ごしなさい！ということになるのでしょうが、そこはまだまだ未熟な子供たち。周りの大人が上手にサポートしてあげなければならない発達段階だと思います。

以下の文章は、私が睡眠や生活リズムの講話をする際に参考にしている書籍からの引用です。

殺すのは誰でもよかった!

2008年、東京・秋葉原で起きた無差別大量殺傷事件。犯人は２５歳の若者「人を殺したかった」「殺すのは誰でもよかった」という言葉に慄然（りつぜん）とします。2008年は、前半だけで若者による無差別殺傷事件が、東京品川、茨城土浦、そして秋葉原と３件も起きました。凶行に及んだ若者たちが口にする「人を殺したかった」「殺すのは誰でもよかった」というセリフには、許し難い自己中心主義と他者の生命への信じ難い鈍感が見えます。

こうした犯人たちに共通するのが、少年期、青年期の“メディア漬け”ゲームとネット中毒の生活です。犯人の周囲にいた人からは、ゲームにはまり、ケータイやパソコンでのネット生活に多くの時間を費やしていた犯人の過去が明らかにされているのです。　（中　略）

さらに“自己肯定感”“自尊感情”の点でも「自分のことが好きですか」という問いに「はい」と答えた割合は、メディア総接触時間が１日２時間未満のグループでは26.3%だったのに対し、６時間以上のグループでは13.5%と有意に低い数字となっています。　（後　略）

「メディア漬け」で壊れる子どもたち　　清川輝基・内海裕美　共著　　第１章３より抜粋
少年写真新聞社　2009年初版第１刷発行より

右の図を覚えていらっしゃいますか？そうです、４月の教育振興会総会の際にお配りした資料の図です。あの時は、拳銃で先輩の指導教官を殺してしまった１９歳の巡査の事件についてお伝えしました。

前頭前野をしっかり育てるには？

復習になりますが、前頭前野と呼ばれる脳の大脳皮質は、人間としての機能をフルに活用していくために極めて大事な部位です。様々な役割を担っていますが、特に創造力（活用力）や**感情のブレーキ**などこれから社会に出て行く上で大切な力が発揮される場所です。この部位を含めて**人間の脳が完成（成熟）するのは25歳くらいまでゆっくりとした時間が必要であることが研究で分かってきました**。また、**その成長を阻害するものが不規則な生活リズムや成長期の睡眠不足であることも解明されています**。

この夏休み、ご家族はいつも通り仕事に出かけられ、残った子供だけの時間が増えます。誰にも制限されることのない自分の時間を有効に使って欲しいのですが、やはり楽しいことや楽なことに流されるのが人間のつらさです。友達に誘われるまま通信機能を使った対戦型ゲームを続けたり、終わりの見えないメールのやりとりを続けたり、ネットの指示のまま次々と提供される動画を見続けたり、気がつけばアッという間に時間が過ぎていることは大人でも経験があるはずです。ましてや成長過程の子供たちです。「いけない！」「まずい！」と思いつつも、ついつい習慣化してしまい、そのリズムを２学期まで引きずってしまう危険性は十分に想定されます。

今の時代、「通信機器に触れるな！」「使うな！」という指導は難しいと感じています。それよりも、家族間で使用に関するルールを決めて、来るべき社会人時代に備えた訓練をさせ、**これらの機器が持つ「光と陰」の部分をしっかりと教えて育てる段階に入ってきた**のではないでしょうか。

ぜひとも、夏休みの始めにルール確認をして、２学期につながる夏休みを過ごさせてください。